

「福井新々元気宣言」推進に関する施策

「福井県民の将来ビジョン」に基づき、「福井新々元気宣言」の「元気な産業」、「元気な社会」、「元気な県土」、「元気な県政」に掲げられた政策等を実現するため、県民の理解と参加を得ながら、責任を持って職務を遂行し、次に掲げる施策・事業について重点的に実施します。

平成26年4月

福井県教育委員会教育長 林 雅 則

I 26年度の基本方針

福井型18年教育を推進します。

家庭教育への支援や、保育士・幼稚園教諭の資質向上を図り、人間形成の重要な時期である幼児期の教育力を高め、学校教育への円滑な接続を進めます。

ふるさとに誇りを持ち、古典、芸術など一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばす教育を進め、小・中学生の全国トップレベルの学力、体力を更に高めます。

英語については、「話す」「聞く」ことを充実する授業へ改善するなど、小・中・高を通じた使える英語教育の向上を進めます。

高校教員が協力して過去の大学入試問題の模範解答例を作成するなど大学進学指導力を向上します。

職業教育では、企業・農業現場での実習の充実、資格取得の強化など、実践的で専門性の高い人材を育てます。

福井の教育を次のステージに引き上げ、教育力を高めます。

中学・高校の6年間を見通した特色ある教育課程を編成し、県内初の併設型中高一貫教育を行うため、平成27年4月に高志中学校を開校します。

I C T機能を活用した予習を重視する学習など、高校における新しい授業を実践して、教員の授業改善を進めます。

教員が主体的に授業改善を進める自主研究会を育成・支援するとともに、本県ゆかりの企業経営者等を「福井ふるさと教員」に任命するなど、外部人材を活用して、わかる楽しい授業づくりを進めます。

国体に向けた競技力の向上を進めます。

平成30年の「福井しあわせ元気国体」に向けて、本県ゆかりのトップアスリートが県内を拠点に、選手や指導者として活躍できるよう支援を強化するとともに、トップレベルの指導者から直接指導を受ける機会を充実することや、高校の重点強化校等に優秀な強化コーチを配置することにより、競技力を高めます。

ふるさと文学館を開館します。

本県ゆかりの作家に関する直筆原稿等や、映像や音声など作家の実像に触れ、親しむことのできる資料を収集し、県内外の多くの方々に、文学を通して福井の良さを発信できる「福井ふるさと文学館（仮称）」を平成27年2月に開館します。

Ⅱ 26年度の施策

1 日本のモデル「福井の教育」

◇ 夢と希望を育てる学校

○幼児教育の充実【部局連携】

- ・ 幼児教育支援センターによる訪問指導や、保育士と幼稚園教諭と一緒に学ぶ研修会の開催などにより、童謡、昔ながらの鬼遊び、木のおもちゃなどを活用して、心豊かな人間性を育てる幼児教育の充実を図ります。
- ・ 小学校入学前に、先生の話をもじって聞ける習慣などを身に付ける幼児教育を行い、保育所・幼稚園で知っている歌やことばなどから始める小学1年生教育を進めるための本県独自の保幼小接続カリキュラムづくりを完成して、幼児がスムーズに小学校生活に入れる仕組みを確立します。
- ・ 今年度、新しく「家庭教育相談・応援サイト」を開設して、様々な子育て情報を提供するとともに、3歳児健診など全ての保護者が参加する機会に独自に作成したワークシートを活用し、共働きの親でも手軽に家庭でのしつけなどが学べる仕組みをつくります。

幼児教育アドバイスのための保育所・幼稚園巡回訪問回数	140回
(平成25年度 130回)	
小学校の指導内容を学ぶ研修会に参加する保育士、幼稚園教諭等の数	850人
(平成25年度 840人)	
家庭教育力向上のための研修会等参加者数	3,100人
(平成25年度 2,499人)	

○ふるさと教育・古典教育・芸術教育の推進【部局連携】

- ・新たに、福井の偉人の生き方などを学ぶことができる教材づくりや教員の指導方法を研究するとともに、本県ゆかりの企業経営者等を「福井ふるさと教員」として任命し、福井の将来を考える授業などを行い、ふるさと教育を充実します。
- ・教員が古典等を多く読み、児童生徒にその魅力を伝えながら、小学校では百人一首、中学校では古典や漢文を取り入れた教育を進め、古くからの日本文化の良さをつなぐ教育の充実を図ります。
- ・触れる機会の少ない弦楽器の演奏や、本県が所蔵する「落葉（菱田春草）」に代表される日本画の制作などを通じて、一人ひとりの児童・生徒の芸術的能力を引き出す教育を進めるとともに、童謡・唱歌を活用して四季の情景や日本語、旋律の美しさに対する感性を育てる教育の充実を図ります。

「福井ふるさと教員」による授業受講生徒数	1,000人
----------------------	--------

小学3年～中学3年までの国語の授業における 百人一首、古典、漢文を活用した授業時間数 (平成25年度 130時間)	150時間
---	-------

○「白川文字学」を活用した漢字教育の充実

- ・本県独自の漢字指導者に認定された教員を中心に、小学校におけるわかりやすい漢字教育や中・高校生の漢字への学習意欲が高まる指導方法、教材開発などに取り組む研究会を活発に行い、小・中・高を通じて白川文字学を活用した漢字教育、国語教育を充実します。
- ・昨年、初めて設けた「白川静漢字教育賞」の表彰対象の拡大など内容充実を図るとともに、新たに被表彰者や県内外の漢字教育関係者との「漢字教育ネットワーク」を形成して、新しい漢字教育に関する情報発信を進め、日本の漢字教育を先導します。

漢字教育に関する研究会・研修会の開催	50回
--------------------	-----

(平成25年度 24回)	
--------------	--

全国「漢字教育ネットワーク」参加者数	180人
--------------------	------

○英語教育の向上

- ・高校では、英文和訳中心の授業から、「話す」「聞く」ことを重視した授業に転換するとともに、職業系高校では就職後に役立つ英語が学べる独自の教材を作成するなど、高校卒業後に使える英語力が身に付く教育を行います。
- ・中学では、ラジオ語学番組の活用や、高校英語も取り入れたワークシートに基づき、多くの英文を読み込む学習の強化などにより、高校教育につながる英語力の強化を図ります。
- ・小学校では、国に先駆けて、昨年、県独自に開発した小学4年生から英語のリズムや抑揚などを学ぶ学習を拡充し、英語が楽しくなる教育を進めます。
- ・海外インターンシップや大学等と連携して国際課題研究に取り組むスーパーグローバルハイスクールの指定を受けた高志高校やアソシエイト校の敦賀高校を中心に、将来、国際的に活躍する人材を育てるモデル教育を推進するとともに、国の英語教育強化地域拠点に位置付けられた勝山高校と勝山市の小・中学校において、先導的な小中高一貫した英語教育を進めます。
- ・ラジオ英語講座を聴くことなどにより、小学校教員の英語力を高めるとともに、中学・高校の英語教員による専門指導力向上の研究会などを充実するほか、ALTが生徒と共に「FUKUI 英語ランド」や「イングリッシュ・タウン・ウォーキング」など授業外の活動を行います。

(中学生)

英検3級以上を取得した生徒数 1,450人

(平成25年度 1,409人)

(高校生)

英検準2級以上を取得した生徒数 1,100人

(平成25年度 1,055人)

うち英検2級以上を取得した生徒数 340人

(平成25年度 334人)

チャレンジ目標350人

○サイエンス教育の推進

5 未来に希望の人づくり

- ・小学校での「夏休み理科実験応援プロジェクト」の実施や中学生を対象とした「夏休み科学実験チャレンジ教室」の開催に加え、今年度から新たに里山里海湖研究所を中心に理科教員が指導力を活かして、理科好きの子どもたちを増やします。
- ・本県独自の「ふくい理数グランプリ」などを通じて、中・高校生のサイエンスに対する知的探究心を高め、全国科学オリンピックや「科学の甲子園」など、全国コンテストに参加する生徒数を増やします。
- ・南部陽一郎先生など優れた科学者から直接学ぶ機会を多く設けるほか、日本を代表する企業や大学の研究者、エンジニア等による講義や実験など、最先端技術分野を学ぶ機会を広げ、将来の本県や日本の産業を支える人材を育てます。

ふくい理数グランプリの参加者数 (平成25年度 1,148人)	1,150人
全国科学オリンピック等の参加者数 (平成25年度 239人)	250人
課題研究発表会の参加者数 (平成25年度 190人)	200人

○職業教育の充実

- ・今年4月に開校した坂井高校において、最新実習機器を備えた工業実習棟（テクノラボ）を年度内に完成させるほか、奥越明成高校、若狭東高校と共に、総合産業高校として地域と連携した特色ある教育を進めます。
- ・企業的園芸農業の現場や、先端技術を導入している製造工場などでの実習を充実するほか、難関資格取得に積極的にチャレンジする指導や3Dプリンターなど最先端技術が学べる機器整備を進め、実践的な職業教育を強化します。
- ・産業構造の変化に的確に対応した専門性の高い指導が行えるよう外部人材の活用や、教員の企業や試験研究機関への研修派遣を充実します。

国家資格（日商簿記、販売士検定を含む）取得者数
（平成25年度 2,637人）

延べ2,650人

○中高一貫教育の推進

- ・高志高校における県内初の併設型中高一貫教育については、中学・高校6年間を見通した弾力的な教育課程を編成し、6月以降に保護者説明会を開催するとともに、1月に入学者選抜を実施して、平成27年4月に高志中学校を開校します。
- ・高志中学・高校において、中高一貫した教育指導ができる教員体制を整えるため、外部人材を活用するほか、他県の中高一貫教育校に派遣して、教員を養成します。
- ・金津、丹生、美方の各高校での連携型中高一貫教育については、連携する中学校の拡大や高校教員が出向いての教科指導や進路学習指導を強化して、中学と高校の連携の充実を図ります。

◇ 次をめざす教育の充実

○新たな教育振興基本計画の策定

- ・子どもたちが活躍していく国際社会経済情勢が目まぐるしく変化
する中、国の教育再生論議が展開され、今後の本県教育を取り巻
く環境が大きく変わっていくため、今後の本県教育の進め方を議
論し、新たな教育振興基本計画の策定に着手します。

○高校教育改革の推進

- ・これまでの高校再編等の成果を検証して、今後の高校入学定員の
考え方や分校、全日制・定通制のあり方などの検討を進めます。

○教員の資質向上

- ・昨年から改めた、小学校や中・高の各教科別の専門性の高い人材
を確保する教員採用試験の更なる充実に努めるとともに、本県教
員を志望する者に対して、採用後の指導実践力や教員としての素
養を高める研修プログラムを提供します。
- ・今後の本県教育を担う若手教員の授業力や人間力を高めるため、
校種間や地域間を超えた異動を積極的に行うとともに、他県の高
い教育効果をあげている学校や、東京事務所、観光、福祉など幅
広い行政分野への派遣を行います。
- ・今年度から、教育研究所の研修体系を抜本的に見直し、実践的な
授業力を育てるロールプレイ形式の研修や学校に出向いての課題
解決研修、通信機能を用いた学校や自宅で学べる教科研修などを
進め、教員の資質向上を図るとともに、教員自らが主体的に児童
生徒に伝えるべき多くの書物を読むことなどに努めます。

主体的に通信研修等に取り組む教員数
(平成25年度 2,320人)

3,000人

○教員の授業力の向上

- ・校長、教頭を中心に若手教員の授業力を高めるとともに、教員の自主的に勉強を進めるグループ活動を活発にして、学習指導プランの改善や授業力の向上を図ります。
- ・高校教員が協力して過去の大学入試問題の模範解答例を作成するなど大学進学指導力の向上に努めます。
- ・授業名人が協力して、より効果的な授業の進め方を研究するとともに、模範となる授業を昨年引き続きDVDにまとめ、若手教員等の授業力の向上に活用します。
- ・指導力の優れた教員OBの協力を得て、学校を訪問して教員の指導力を高める仕組みを整備します。
- ・すべての高校で、各教科ごとの授業の進め方や難易度などに関する生徒による「授業わかる度調査」を実施し、課題を分析して授業改善を図ります。
- ・ICT機能を活用して、よりわかりやすい授業に改善していくため、スマート教育推進校を定め、教育研究所等と協力してデジタル教材や授業方法の開発を進めます。

教員の自主的な勉強のためのグループ活動件数	1,000件
(平成25年度 917件)	

学習指導プランの登録数

小学校	2,800件	中学校	1,300件	高校	700件
(平成25年度 小学校	2,681件	中学校	1,202件	高校	614件)

生徒から見た授業のわかる度指数(授業満足度)	76%
------------------------	-----

(平成25年度 第1回	73.3%	第2回	75.3%)
-------------	-------	-----	--------

○少人数教育の推進と学校規模の適正化

- ・今年4月から2年間で、小学3年生および4年生における36人以上の学級を解消し、全国をリードする本県独自の少人数教育を前進させます。
- ・小中学校において、児童生徒がたくさん友達と学び合う教育環境を整えるため、市町が主体的に児童生徒100人以下の小中学校の再編を進めるよう、支援を充実して学校規模の適正化を促進します。

◇ 日本の教育センター福井

○福井の教育の全国発信と福井で学ぶ仕組みを充実

- ・大学研究者等と共同で、学力・体力がトップクラスであることを学術的に解明する本を夏ごろに出版します。
- ・本県の優れた教育内容を紹介するDVDを他県の教育機関に配付するとともに、秋ごろに全国の教育関係者を集めた「福井教育サミット」の開催するほか、県外で本県教育の良さをアピールする機会を増やし、本県の教育力を全国に発信します。
- ・全国からの教員を積極的に受け入れ、本県の学校現場で学べるよう、ホームページ等での情報発信を強化するとともに、県外へ出向いて講演等も行い、日本の教育センターとしての機能を高めます。

県外教員の本県学校における研修等参加者数	900人
(平成25年度)	883人

○嶺南・嶺北の交流促進と青少年体験活動の充実【部局連携】

5 未来に希望の人づくり

- ・舞鶴若狭自動車道の全線開通を契機として、嶺北の学校が嶺南地域を訪れ、年縞をはじめ、三方五湖などの自然や若狭の伝統文化を学ぶための学校活動を支援します。
- ・芦原青年の家について、北潟湖等の豊かな自然を活用する体験プログラムの開発改良を進めるとともに、平成28年度の開館に向けて新たな施設整備を着実に進めます。

○いじめも不登校も体罰もない学習環境の推進

- ・「いじめ防止基本方針」に基づき、「思いやりや助け合いの心を持って行動できる」子どもを育てる教育を行い、いじめのない学校づくりを進めるとともに、いじめの早期発見に努め、「いじめ対応サポート班」による早期解消を図るなど、学校・家庭・地域が一体となったいじめ対策を進めます。
- ・全ての小・中学校が参加する不登校対策研修会を定期的に行うことなどにより、不登校の未然防止や迅速な初期対応に努め、不登校を減らします。
- ・校長や教頭が、生徒等から定期的な聴き取りを行うなど、体罰のない部活動、生徒指導を徹底します。

〔	不登校者数	小学校 75名、中学校 390名
	（平成25年度 小学校 79名、中学校 398名）	

○特別支援教育の推進【部局連携】

- ・新たに4月から配置するジョブコーチがサポートして企業実習や求人開拓などを行い、発達障害など特別な支援を必要とする生徒の就労支援を充実します。
- ・就学前の保護者への理解普及を図るとともに、「移行支援ガイドライン」に基づき、小・中・高の移行期の連携体制を充実して、発達障害のある児童生徒が円滑に学校生活を送れるよう、支援します。
- ・特別支援学校の児童生徒と地元学校の児童生徒が共同して学習や作業に取り組むことを支援し、地域で育む特別支援教育を推進します。

2 新しい方向をひらく農林水産業

◇ 食卓に「福井の食」（地産地消、地産外商）

○毎日おいしい地場産給食の実現【部局連携】

- ・新たに国のスーパー食育スクールの指定を受け、嶺北と嶺南の小学校が協力して、自然環境・生活環境が異なる地域の食文化に触れ、理解を深める教育を行うほか、家庭・地域における子どもたちの適切な食事の取り方の指導に力を入れるなど、栄養教諭を中心とした食育活動を強化します。
- ・県内全小学校で、家庭科の調理実習時にこんぶ等を使ったダシのとり方を学ぶことにより、伝承料理など和食文化の理解を深めます。
- ・栄養教諭が料理長等の協力を得て、地場産食材を使った和食給食のメニューを開発するほか、8月に学校給食調理コンテストを開催し、児童生徒の地場産食材や和食文化などへの理解を深めます。
- ・食育の祖、石塚左玄が唱えた「一物全体食」の考えを基に、魚の頭や野菜の葉などを残さず食べる「丸ごと給食」を実施します。
- ・11月の「ふくい味の週間」などを中心に、地場産食材を使用した給食を保護者や地域の方にも味わってもらいます。

3 国体めざす県民スポーツ、生活のなかに楽しむ県民文化

◇ 飛躍する福井のスポーツ

○スポーツ競技力の向上

4 「幸福共感」、楽しむ福井の暮らし

- ・平成30年の「福井しあわせ元気国体」に向けて、今年、長崎で開催される国体での10位台を確保するとともに、オリンピック経験者などトップレベルの指導者から直接指導を受ける機会を充実することや、高校の重点強化校等に優秀な強化コーチを配置することを進め、競技力のレベルアップを図ります。
- ・日本代表などへの指導実績を持つ優秀な専門トレーナーを招き、体力・心理面の強化を行い、常にベストなコンディションで試合に臨める選手を育成します。
- ・本県ゆかりのトップアスリートが県内を拠点に、競技選手や指導者として活躍できるよう、競技団体や県内企業などと一体となって支援を強化します。

国体総合成績	10位台
(平成25年度 24位)	

○1県民1スポーツの推進【部局連携】

4 「幸福共感」、楽しむ福井の暮らし

- ・体力日本一の子どもたちに運動する習慣が身に付くよう、小学生には昼休みや放課後に楽しみながら運動や遊びを体験する機会を増やし、中学校においては国体種目を取り入れたスポーツ活動を充実します。
- ・冬季でも行えるスティックリングなどのレクリエーションスポーツの体験会を開催し、年間を通じて、子どもから高齢者・障害者まで多くの人々がスポーツに親しめる機会を提供します。

県民のスポーツ実施率（週1回以上）	50%
(平成24年度 36.8%)	

○県有体育施設等の整備【部局連携】

4 「幸福共感」、楽しむ福井の暮らし

- ・国体のメイン会場となる福井運動公園の県営体育館や陸上競技場をはじめ、漕艇場やクレー射撃場など県有体育施設について、平成28年度から順次、使用できるよう改修工事を計画どおり着実に進め、選手の実戦力強化や県民のスポーツ促進を図ります。

◇ 生活に福井の文化

○国宝・重要文化財、県文化財の指定の拡充・推進【部局連携】

- ・国の重要文化財指定に向けて、県内の優れた「祭り・行事」や「史跡・名勝」等の調査を進めるほか、「越前焼」や「漆器」など本県に伝わる伝統的工芸や民俗技術の指定文化財を増やし、県民の宝である文化財の保存や活用を図ります。

国宝・重要文化財・県指定文化財の新規指定件数
(平成21年～25年度の平均 8.8件/年)

9件

○「福井ふるさと文学館（仮称）」整備推進

5 未来に希望の人づくり

- ・本県ゆかりの作家に関する直筆原稿等や、映像や音声など作家の実像に触れ、親しむことのできる資料の収集を行うとともに、展示工事を着実に進め、平成27年2月に「福井ふるさと文学館（仮称）」を開館します。
- ・文学講演会や文芸講座等の実施により、若い世代が文学に親しみ、創作活動に参加する機会を提供し、文学への関心を高めます。

○こども歴史文化館の拡充推進

- ・子どもたちが郷土の先人の業績を、より広く深く知ることができるよう、実物資料の収集を進めるとともに、すでに収集した奇術関連資料、蓄音機などの展示充実のための方策を検討します。
- ・タイムリーな企画展示やワークショップ・体験教室を積極的に開催し、子どもたちが体験しながら、福井の歴史・文化を理解できる機会を充実します。

こども歴史文化館の来館者数	52,000人
(平成25年度 51,753人)	

4 すぐれた医療と支えあいの福祉

◇ 「こころとからだの健康」づくり

○子どもの目と歯の健康づくりの推進【部局連携】

- ・近視予防のため、全ての小・中学校で、野外での活動や休み時間に遠くを眺める活動を充実するほか、学校と家庭が一緒になって、近視予防につながる規則正しい生活の定着を図ります。
- ・むし歯予防のため、全ての小学校で永久歯に生えかわる時期となる小学4年生までを対象とした歯みがき教室を実施し、正しい歯みがき習慣の定着を図ります。

むし歯のない小学生の割合	38%
(平成25年度 36.3%)	

5 若者のチャレンジと女性の活躍を応援

◇ 子どもがたくさん、家族を応援

○「放課後子どもクラブ」への支援

- ・希望するすべての小学生が放課後子どもクラブを利用でき、安心して放課後を過ごすことができるよう、県独自の支援を引き続き実施し、市町における放課後子どもクラブの拡充を促します。
- ・指導者に対して、安全管理、生活指導、遊び指導等に関する研修を充実して、放課後子どもクラブの活動を向上させます。

6 日本一の安全・安心（治安向上から治安実感へ）

◇ 治安実感プログラム

○通学路交通安全の推進

- ・学校、道路管理者、警察が協力して、学期前や降雪期を中心に安全点検を実施し、見守り活動の強化や横断歩道の整備などの安全対策を進め、通学路の安全を確保します。
- ・子どもたちが、自らの命を守る安全な行動ができるよう、道路を安全に横断する方法や自転車の正しい乗り方など、交通安全に関する正しい知識を深める交通安全教室を開催します。

◇ 地震・異常気象・災害などに迅速対応

○防災教育の推進

- ・ 本県独自に作成した「学校防災マニュアル」に基づき、児童生徒が、自らの命を自ら守る能力を身に付ける防災教育を行います。
- ・ 気象や防災の知識を有する「学校防災アドバイザー」を派遣し、学校の防災体制の強化や避難訓練への助言を行い、教員と児童生徒の災害への対応力を高めます。

○子どもを守る耐震化の促進

- ・ 児童生徒の学習の場、地域住民の避難場所となる学校施設の耐震化や、天井等の落下防止対策が必要な学校体育館等の改修を進め、災害時の安全・安心を確保します。

耐震化率	
小・中学校施設（平成26年度末）	94%
（平成25年度末 89.8%）	
県立学校施設（平成26年度末）	94%
（平成25年度末 93.1%）	